融合力・自律力を高め、連携ビジネス・独自ビジネスともに拡大する

NTTデータの公共系グループ会社4社が統合し設立されたNTTデータアイ。モノづくり力強化施策、技術者育成、i-NEXT活動による新しい企業文化の創造に注力し、システム開発を通じて社会に貢献する会社として事業展開する同社の取組みについて、村松充雄社長にうかがった。

㈱NTTデータ アイ
代表取締役社長
村松 充雄氏

NTTデータの9事業本部との連携ビジネスを中心に事業展開

――初めに、貴社の概要・特徴からお聞かせください。

村松　NTTデータアイは公共分野を担当していた4社が統合し2008年10月に設立され、2009年にはさらにもう1社合併してできた会社です。会社名の「アイ」には、統合して4つの会社が1つになったことから、「Integration（結集・融合）」、「Innovation（革新）」などを意図していますが、真の狙いは、社員一人ひとりが活躍し誇りを持って仕事に取り組むという意味で一人称の「I（アイ）」、そして社員が作り出すシステムはお客様にこよなく「愛」されるシステムであること、という決意が込められています。従業員数は、現在1600名を超え、中央省庁の大規模システムや地方公共団体の各種行政システム、保険・医療・福祉分野のシステム等、20年以上に亘って社会の基盤となる“社会情報システム（ISS；Information Systems for Society）”の構築に携わってきた実績を持っています。こういった公共分野で培ってきたノウハウを最大限に活用し、NTTデータの金融分野やリージョナルビジネス分野、ソリューション＆テクノロジーカンパニーの仕事にも参画し実績を積んできています。NTTデータの9事業本部と連携ビジネスを展開しているというのは、大きな特徴といえます。

――NTTデータとの連携ビジネスの売上比率はどのくらいですか。

村松　84％ありますが、連携ビジネスで培ったものを活用した独自ビジネスも今後拡大していく方針です。昨年度売上比率は16％ですが、今年度は順調に伸びてきています。例えば、公共分野でも、国のシステムはNTTデータとの連携ビジネスですが、外郭団体や関連業界のシステムはNTTデータアイが独自に手がけるというような形でビジネスを伸ばしています。地域ビジネスにおいては事業移管を受けて全国展開を視野にしている商品もありますし、他にも、商品開発を連携して行い、販売はアイとして行っているソリューションなどがあります。ここ数年は、特に、安心・安全な社会実現や地球環境への配慮、グローバル化による国際ルールの適用、ASP・SaaSを中心としたクラウド化技術の進展とともにお客様の利用環境も急速に変化し、求められるサービスも大きく変わってきていますので、当社もそれらに柔軟に対応し、お客様にご満足いただける信頼できるパートナーとして事業を展開していきます。

融合力・自律力の向上を図る、3本柱の重点施策を推進

――経営の基本方針及び今年度の重点施策をお聞かせください。

村松　私たちの企業理念は「人と社会と未来のために」です。社員一人ひとりの豊かな発想と挑戦を大切にし、「豊かで幸せな社会づくり」に貢献することを経営の基本方針としています。具体的な重点施策として、「モノづくり力業界No.1を目指す」「人材育成に力を入れる」「i-NEXT活動」の3本柱を掲げ、①組

織能力の向上（特に融合力を重視した事業運営）、②人材育成（開発・運用技術者から営業・スタッフに拡大して展開）、③i- NEXT活動（融合力、自律力の向上のためにも重要な活動）の３つの領域に重点的に取り組んでいます。特に「融合力と自律力」を高めていくことが、会社を良くする、強くすることにつながると考えています。

――３本柱の重点施策のポイントをお聞かせください。

村松　「モノづくり力業界No.1を目指す」という施策では、NTTデータアイとしてのユニークな施策を実践することで、その成果をグループ各社へも展開することを視野に入れています。例えば、設計・開発の自動化については、ベースとなった方法論や手法は公共分野で培ったものですが、NTTデータアイの社員が開発支援環境の構築や普及活動に参画していることから、グループ会社に協力する形でNTTデータアイの社員が開発環境などモノづくりの手法を実プロジェクトに展開していくお手伝いができると考えています。

また人材育成については、社員自身が目標とする人材像を定義し、会社が支援する育成施策を有効に活用しながら計画的に取り組むマイロードマップ（経験のデザインツール）の活用など、グループ内でも独自の施策を展開しています。各社によって求められる人材像、求められる技術は異なりますが、“育成のプロセス・方法論”は各社で活用できると考えており、このモデルは、グループ会社への横展開も可能と考えています。

8つの価値を基軸に、新しい企業文化の創造を目指す

――NTTデータの企業変革活動に倣った「i-NEXT」についてお聞かせください。

村松　社内変革の取組みである「i-NEXT活動」は３本柱のベースとなる施策です。昨年下期から本格的に活動を開始し、社長を含めた経営幹部と社員の対話会をはじめ、管理者へのセミナーと意見集約などを行ってきました。最近では、経営幹部が“NTTデータアイとして大切にしたい価値は何か”を議論するための「経営幹部ワイガヤ」を実施し、会社として大切にしたい８つの価値（目標領域で３つ、マインド領域で４つ、共通領域で１つ）を抽出しました。目標領域の３つの価値の中には、先述の人材育成との関連で「社員の成長」が含まれており、このこころの一つは「社員の成長を最も重要と考え、社員を見守り応援する」としています。今後、この８つの価値を高めるために、経営幹部だけでなく管理者セッション、職場セッションなどを通して、全社員がこの価値を深く理解して行動し、“NTTデータアイらしさ”を社員全員で作り上げていくつもりです。i-NEXT活動は、社員が活き活きと仕事をする環境を作ること（ワークスタイルイノベーション）が重要であるということを実践するための活動でもあります。これによりNTTデータアイの「新しい企業文化の創造」を図っていきたいと思っています。

i-NEXT活動“経営幹部ワイガヤ”の模様

今中期売上320億円を目指す

――最後に今後のビジネスの抱負をお聞かせください。

村松　今中期（平成24年度）売上高320億円の必達目標を掲げています。この実現に向けては、現行領域を守りつつ、ビジネスを広げていくことが重要で、伸展を期待する領域としては、医療分野、地域ビジネス分野、金融分野、環境分野、教育分野などを視野に入れています。また、それらの領域を中心とした独自ビジネスも、会社の将来への布石としてしっかりと取り組みたいと考えています。また、貿易関連ビジネスの拡大、航空・交通分野に係る案件でのアジア進出なども視野に入れており、これらの取組みを成功させることにより、今年度はNTTデータアイにとってのグローバル化元年となるかも知れません。

――本日は有り難うございました。

（聞き手・構成：編集長　河西義人）